

平成25年度 自己点検・評価に係る報告書(教育に関する活動状況の自己点検・評価)

米子工業高等専門学校 第2期中期計画		平成25年度 年度計画	活動内容	主たる 担当部署
1・ 教育に 関する 事項	(1) 入学者の 確保	・アドミッションポリシーにふさわしい人材を的確に選抜できるように入試方法の見直しを行う。 ・入試選抜方法改善後の入試倍率や入試成績の変化等を調べる。 ・前期中間、前期末、後期中間、学年末試験の成績について、新入学生の成績追跡調査を行う。	・入試選抜変更後の倍率と入試成績の変化を調査したが、大きな変化はなかった。また、学力試験における面接の廃止の影響も見られなかった。 ・最近の入学志願者数の動向調査を行い、県外が増加、東中部が横ばい、西部で減少、全体でやや増加であることがわかった。 ・本年度の前期中間試験結果について前期中間試験分の影響について、教務担当の部会内で検討したが、大きな影響は見られなかった。前期末試験の結果については、入試委員会に諮り、現行の入試方法に問題がないことを確認した。(11月実施済) ※H24年度からの入試(学力選抜)選抜方法改定に伴う影響を把握するため、内申点・入試成績や入学後の新入学生学力診断テストの結果との相関・年度ごとの推移を検討し、その影響や入学者学力レベル向上につなげるべく調査を継続している。その結果、入試選抜法改定に関する影響はほとんどなく、内申点と入学後の成績に相関係数R=0.6程度の相関があることが判明した。	教務部
	(2) 教育課程 の編成等	①15歳人口の減少傾向や産業ニーズの動向など地域の実情に合わせて、学科再編の検討を進めるとともに、専攻科の整備・充実を行う。 ・モデルコアカリキュラム導入に向けての検討を続ける。 ・H26年度に中間審査を控えた複合システムデザイン工学プログラムについては、H24年度に検討され学内で審議・承認された専攻科カリキュラム改定内容をもって、H25年9月に学位授与機構へ申請し改定の手続きを行う。	・モデルコアカリキュラム導入については、本部から提示された内容と本校のカリキュラムとの整合性について再度確認した。 ・教務関係教員がいくつかのモデルコアカリキュラムについての研修会に参加した。(12月～3月実施済) ・H24年度から学内審議・承認されていた専攻科カリキュラム改定に関わる申請手続きについて運営会議にて了承された。(6月済) ・複合システムデザイン工学プログラムを構成する生産システム工学専攻および物質工学専攻のカリキュラム改定の申請を行い学位授与機構の承認が得られた。(9月実施済) ・専攻科カリキュラム改訂に関わる学生への周知のためのガイダンスを次年度当初に実施すべく資料作成・準備作業を行った(3月実施済)。	教務部 専攻科
	②産業界における人材需要や学生のニーズの変化等に対応した学科再編の検討を行う。 ・卒業・修了生向け及び企業向けアンケート調査の結果を踏まえ、今後の対応策を検討する。 ・昨年度の評議員会での外部有識者からの意見を踏まえ、JABEE委員会を中心に、平成26年度に中間審査を控えた複合システムデザイン工学プログラムについて、継続的に教育目標や専攻科カリキュラムの検討を行う。	・複合システムデザイン工学プログラムを構成する生産システム工学専攻および物質工学専攻のカリキュラム改定の申請・承認が得られた。また、特例適用専攻科認定申請のため専攻科のカリキュラム(特別研究等)を改定した。(3月実施済) ・カリキュラム改訂に伴い複合システムデザイン工学プログラムについて学習・教育到達目標や科目関連表の改訂を行った。(3月実施済) ・企画部教職員アンケートの結果から、教職員の89%がJABEEについて意識して教育活動を実施していることを確認した。(2月実施済) ・企画部学生アンケートの結果から、専攻科生の80%以上および本科5学年の60%以上がJABEEについて認識していることを確認した。(2月実施)	企画部 教務部 専攻科	

米子工業高等専門学校 第2期中期計画	平成25年度 年度計画	活動内容	主たる 担当部署
③入学時の基礎学力を把握するための試験を実施するほか、各分野において基幹的な科目について必要な知識と技術の修得状況や英語力を把握し、教育課程の改善に役立てるために、学習到達度試験を実施し、試験結果の分析を行う。また、英語については、検定試験等を積極的に活用して、技術者として必要とされる英語力を伸長させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・本科3年生を対象として全国高専共通の学習到達度試験(数学・物理)を実施する。 (1) 結果に関する情報を教養教育科と専門学科間で共有し、到達度向上策を検討する。 (2) 学習到達度試験対策として本校の数学教室で作成した3年生対象の復習問題集を改訂し、授業で使用する(後期)。 (3) 課題や定期試験、e-ラーニングを通して、学習到達度試験に対する学生の意識を高める。 ・編・転入学生に対する学習支援として、入学予定者への事前指導と入学後の学習支援を行う。 ・3年生におけるTOEIC全員受験を実施するとともに、CALL教室の積極的活用等を通して語学教育の充実を図る。 (1) 1～3年生に英単語コンテストを実施し語彙力の増強を図る。 (2) 年度末にTOEIC400点以上の学生を調査し、学外向け広報誌(彦名通信)に公開する。 (3) 本年度末までに専攻科1学年のTOEICスコアの一覧表を作成し、専攻科生の英語力について各年度推移をデータベース化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全国共通の学習到達度試験を実施した。(1月実施済)また、CALL教室の積極的活用等を通して語学教育の充実を図った。 ・本科3年生に対し、TOEIC受験を補講期間に実施した。(2月実施済) ・専攻科1学年のTOEICスコアの一覧表を作成し、データベースに追加した。(3月実施済) ・科目間連絡会「専攻科の英語教育について」を実施し意見交換した。(10月実施済) ・1～3年生に語彙学習用テキストを用いて、学年ごとに学習単語数を定め、授業ごとに確認テストを行って英語語彙力の増強を図った。英単語コンテストを実施し、学習成果の確認を図った。 ・後期に学習到達度試験の模試を実施し、その結果の分析を行った。 ・学習到達度試験対策として、本校数学科で作成した3年生対象の復習問題集を改訂した。後期から、授業で使用した。 ・課題や定期試験、e-ラーニングを通して、学習到達度試験に対する学生の意識を高めた。 ・編・転入学生に対する学習支援として、入学予定者への事前指導と入学後の学習支援を行った。 ・評議員会の指摘も受け、TOEICスコアアップを目指したTOEIC受験対策に関する英語講座等の学習支援実現を来年度に模索して行く。 ・学習到達度試験の分析結果や原級留置学生数等を考慮し、1～3学年の低学年に向けた学習支援施策の見直しを図り効果の拡大を検討する。 	<p>教務部 専攻科 キャリア支援室 教養教育科</p>
④卒業生を含めた学生による適切な授業評価・学校評価を実施し、その結果を積極的に活用する。	<ul style="list-style-type: none"> ・在校生への授業評価アンケートを実施してその結果を校内ホームページで公開する。 ・授業評価結果が優れた教員を選出し、新任教員の研修(授業参観)に活用する。 ・授業評価アンケートの結果などをもとに、教員や技術職員などを対象としたFD研修会を企画する。 ・学生による教員顕彰を実施し、評価の高い教員を校内ホームページにて公開する。 ・本科とともに専攻科でも7月～8月上旬に前期授業アンケートを、12月に後期授業アンケートを実施し、2月に授業アンケートの結果を校内HP上で公開する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前期については、在校生へ授業評価アンケートを実施し、その結果を校内ホームページにて公開した。また、後期についても授業評価アンケートを同様に実施し、校内ホームページに公開した。(2月実施済) ・次年度の授業改善のため、非常勤講師にも公表を行った。(3月実施済) ・中国地区教員研修会(着任後概ね5年)を実施し、これを低学年担任FD研修と位置付け、担任としての日常的な諸問題および課題活動における諸問題に関する研修を行った。(3月実施済) ・学生による教員顕彰を実施し、評価の高い教員を校内ホームページにて公開した。(11月実施済) ・本科とともに専攻科でも学生への授業評価アンケートを実施し、その結果を校内ホームページに公開した。(2月実施済) ・地域の産業構造やニーズ、また本校の入学志願者状況などからみて、当面の間大括り化やコース制の導入は考慮しなくてよいものと判断している。 <p>※定期的な授業評価アンケートが実施され、各担当教員の授業改善の目安となっている。アンケート結果が平均を下回る授業科目担当には、教務担当校長補佐より改善指導・助言を行うシステムが機能している。</p>	<p>運営会議 教務部 専攻科</p>
⑤教育活動や生活指導の活性化を奨励する。	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の授業評価アンケートおよび課外活動等、教員の教育活動や生活指導の取組結果について調査し、評価基準に基づき評価して運営会議で教育研究活性化経費の配分を決定する。 ・機構主催の教員顕彰を実施し、結果を踏まえ運営会議で校長表彰の人選を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・点検・評価委員会にて、昨年度の教育研究活性化経費配分者に対する実施報告書の評価を行い報告者に評価結果を伝達した(9月に示達)。 ・平成25年度の教育研究活性化経費の公募を実施し、応募申請書に対する評価を運営会議メンバーにて行い配分額を決定した(10月配分済)。 ・高専機構の教員顕彰制度の評価基準に基づいて教員を推薦し、若手部門で優秀賞を獲得することが出来た。 	<p>運営会議 点検・評価委員会</p>

米子工業高等専門学校 第2期中期計画	平成25年度 年度計画	活動内容	主たる 担当部署
<p>(4) 教育の質の向上及び改善のためのシステム</p>	<p>①教育の質の向上へ向けた教材や教育方法の開発及び、創造的・実践的技術者の育成を目的としたエンジニアリングデザイン教育を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有識者を招いて年1回教育懇談会を実施する。 ・学年ごとの集団担任制を推進し、担任力の強化・充実を図る。 ・時間割・カリキュラムの検討を行い、自学自習を推進する。 ・外部資金や企業人材を活用した教育プログラムの実施し、教育方法の改善や教材開発を進める。 ・専攻科生TAによる低学年学習支援を実施する。 ・教員による編入生学習支援を実施する。 ・授業参観を続けて実施するとともに、公開授業に発展する様に検討を始める。 ・図書館のシラバス参考書コーナーを整理・補充し、最新のものと置き換える。 	<p>・図書館情報センターの改修と関連させ、有識者を招いて「図書館の活用等について」教育懇談会を実施した。(11月実施済)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年ごとの集団担任制を推進し、担任力の強化・充実を図った。 ・時間割・カリキュラムの検討を行い、基本的に2時間連続の授業として放課後時間を確保し、自学自習を推進した。(平成23年度から実施済) ・外部資金や企業人材を活用した教育プログラムの実施を後期からスタートさせた。 ・専攻科生TAによる低学年学習支援を年4回ある中間試験及び定期試験で実施した。 ・編入生学習支援については、担任を通じて学生本人から要望を聞き、希望のあった4D学生の数学および電磁気学は数学担当教員と専門学科教員で対応した。(6月実施済) ・授業参観を実施したところ、保護者からのアンケート数も増加し、好評であった。(5月実施済) ・図書館の改修工事後にシラバス参考書コーナーを最新のものと置き換える予定であったが、図書を揃えるスペースが確保できなかったため、今年度は見送った。 <p>・企画部学生アンケート結果からは、図書館の早期のリニューアルオープンを望む回答が多くあった。平成26年4月にリニューアルオープンし、平日放課後を中心に多くの学生が利用している。情報教育センター内のPC端末の更新を求める回答が多くあり、平成27年度のPC端末設備更新に向けた検討を進めている。(2月実施)</p> <p>・企画部教職員アンケート結果から、授業評価アンケート結果を踏まえた教員各自の教育活動への自己評価について設問し、73%の教員が良好もしくはおおむね良好であると自己評価している。さらに授業評価アンケート結果をふまえた次年度への授業内容や授業方法の改善内容についての具体的内容も集約した。(2月実施)</p> <p>・企画部教職員アンケート結果から、授業内容、教材、教授技術等についての継続的な工夫・改善状況について設問し、87%の教員が工夫を行っていることを確認した。さらにその工夫・改善点の具体的内容も集約した。(2月実施)</p>	<p>教務部 キャリア支援室 学年主任団等 図書館 情報教育センター</p>
<p>②在学中の資格取得を奨励するとともに、日本技術者教育認定機構(JABEE)によるプログラム認定を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・JABEE委員会を中心に、中間審査を必要とする複合システムデザイン工学プログラムばかりでなく、正式認定された建築学プログラムも含めてJABEE受審で指摘された事項について検討する。 ・H26年度に中間審査を控えた複合システムデザイン工学プログラムについては、H24年度に検討され学内で審議・承認された専攻科カリキュラム改定内容をもって、H25年9月に学位授与機構へ申請し改定の手続きを行う。また、専門部会を立ち上げて中間審査に向けた準備を行う。 ・資格ガイドブックの製作・配布を行う。年度末に資格取得者の調査を行い、学外向け広報誌(彦名通信)に公開する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・専攻科複合システムデザイン工学プログラムの生産システム工学と物質工学専攻のカリキュラム改定を行った。(3月実施済) ・認証評価に関する専門部会を10/2に立ち上げ済み(自己評価書案の年内作成を目標)。今後は、この部会を以てJABEE中間審査に向けた準備も併行して行う。年度内で計6回の専門部会を開催し、自己評価書原案を年度内に作成した。 ・さらに、JABEE受審に対する本校運営組織・点検組織の見直しを行った(10月に新組織の組織図および構成メンバー表を各部署・各科に示達)。本新組織の構成に基づき各部署で点検部会を開催し、年度計画に対するフォローアップ体制を定着させた(11月)。 ・資格ガイドブックの製作・配布を行い、資格取得の支援を行った。年度末に資格取得者の調査を行い、彦名通信で公開した。(6月、3月実施済) <p>・専攻科カリキュラム改訂に関わる学生への周知のためのガイダンスを次年度当初に実施するべく資料作成・準備作業を行った(3月実施済)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画部教職員アンケートの結果から、教職員の89%がJABEEについて意識して教育活動を実施していることを確認した。(2月実施済) ・企画部学生アンケートの結果から、専攻科生の80%以上および本科5学年の60%以上がJABEEについて認識していることを確認した。(2月実施) 	<p>教務部 専攻科 キャリア支援室 JABEE委員会</p>

米子工業高等専門学校 第2期中期計画	平成25年度 年度計画	活動内容	主たる 担当部署
③学校の枠を超えた学生の交流活動を奨励する。	・大島商船高专主管で4/26, 27に開催される中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会に参加するとともに、同専攻科長会議にて情報交換を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会に28名が参加するとともに、同専攻科長会議にて情報交換を行った。(4月実施済) ・8月25～30日に茨城県つくば市で行われた「第7回アジアサイエンスキャンプ」で物質工学科3年生が日本代表として参加し、ポスタープレゼンテーションにおいて200名の参加者の中からゴールド・アワードを受賞した。 ・8月21～23日に名古屋市で行われたサマーサイエンスキャンプに物質工学科から2名の学生が参加し、物理学を利用した農学というテーマで研修を受けた。 ・11月3・4日に大阪市で行われた高校化学グランドコンテストに参加し、大阪市長賞を受賞した。 ・3月1・2日に幕張メッセで行われたサイエンス・インカレ研究発表会に参加し、独立行政法人科学技術振興機構理事長賞をはじめ多数の賞を受賞した。 	教務部 学生部 専攻科
④優れた教育実践例を研修会等を通じて共有する取り組みを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・採用3年以内の新任教員の授業力向上を目的として、ベテラン教員とのペアによる双方向授業参観を実施する。 ・授業評価アンケートにおける評価が高かった授業もしくは創造教育の取り組みなどを校内の教職員へ紹介するFD研修会を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・採用3年以内の新任教員について、ベテラン教員とのペアによる双方向授業参観を実施した。(5月, 11～2月実施済) ・高専機構主催のPBL教育に関する研修を受けた教員によるFD研修を年度内に実施する予定であったが、時間確保が困難のため開催できなかった。平成26年度当初に以下のように実施した。 <ol style="list-style-type: none"> 1) FD研修会「平成25年度英語授業講義力強化プログラム参加 (CompTIA CTT+取得) 報告」電気情報工学科 宮田教授 (H26年6月実施) 2) FD研修会「平成25年度英語授業講義力強化プログラム 分野別到達目標に対する教育指導法とその評価～PBL教育を例として～参加報告」物質工学科 田中准教授・教養教育科 大庭准教授 (H26年6月実施) ・企画部教職員アンケートの結果から、FD研修のテーマ設定および内容について、教職員の75%が適切であると考えていることを確認した。特にハイパーQ-Uアンケートや特別教育支援に関するFD研修会の内容については、教職員の72%がこれらについての教育上の意識が向上したと回答し、教員を中心に52%が教育改善やクラス経営にも役立っていると回答しており、一定の効果があることを確認した。(2月実施) 	教務部
⑤多角的な評価への取り組みによって教育の質の保証がなされるように留意する。	<ul style="list-style-type: none"> ・大学評価・学位授与機構による機関別認証評価の準備を計画的に進める。 ・学生に対する周知度・達成度・学習環境に関するアンケート調査を実施する。 ・前年度実施したアンケート調査結果を校内ホームページに公開するとともに、調査結果を分析し改善案を検討する。 ・評議員会において本校の教育研究活動に関する外部評価を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学評価・学位授与機構による機関別認証評価の準備作業を企画部主導で9月末までに進め、10/2に専門部会を立ち上げた。今後はこの部会を以て自己評価書作成などを計画的に進める。年度内で計6回の専門部会を開催し、自己評価書原案を年度内に作成した。 ・H24年度の学生・教職員アンケート結果を纏め、点検・評価委員会にて審議・承認の後、各部署における具体的な取り組みを促した。また、この調査結果を校内ホームページに公開した(6月実施済み)。 ・H25年度評議員会を開催(H25/12実施)し、H24年度(H25/6月)に達成状況をホームページに掲載)～H25/11現在までの本校の年度計画達成状況報告に対する外部有識者のご質疑・ご意見を伺い、その内容をホームページに掲載した(1月掲載済み)。 ・H25年度の学生・教職員に対する周知度・達成度・学習環境に関するアンケート調査を計画的に実施(2月実施済み)し、昨年度を大幅に上回る回収率を得た。 <p>※留年率低減を目的として、定期試験前の学習支援体制の見直しも行い定期試験3週間前から行い10日前には終了することで、定期試験直前は自主的な学習を促すように改めた。実績として利用者延べ人数369名(H24:331名)、満足度は98%が満足という結果であった。また、評議員会などのご指摘により、グローバル人材育成の一環としてTOEICスコア向上を目的として、H26年度より外部講師によるTOEIC講座を運営することを決定した。</p>	運営会議 企画部

米子工業高等専門学校 第2期中期計画	平成25年度 年度計画	活動内容	主たる 担当部署
⑥可能な限り、学生が卒業までにインターンシップに参加できるよう、産業界等との連携を推進するとともに、地域産業界との連携による共同教育体制を検討し充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップに関する講演会を開催するとともに、関連する情報データベースの充実を図る。 ・鳥取県産業振興機構、県経営者協会、ふるさと定住機構、米子高専振興協会等とのタイアップによりインターンシップ教育の促進を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・データの更新・追加などインターンシップ情報データベースの充実を行い、学生のインターンシップ活動を支援した。(5月～6月実施済) ・インターンシップに関する講演会を、4年生に対しては4月に、3年生に対しては2月に開催し、インターンシップの動機付けと意義の再確認を行った。(その都度実施) ・県産業振興機構、県経営者協会、ふるさと定住機構等と協力しインターンシップ事業の促進と充実を図った。(その都度実施) ・4年担任および進路指導教員の協力を得て、5月中旬から6月中旬にかけてインターンシップ情報を作成した。インターンシップ前(8月)にガイダンスを実施し、インターンシップの意義の再確認と諸注意を行った。インターンシップ先を確保するために、県行政機関などと打ち合わせする他、国の就活ガイダンスなどを活用した。(その都度実施) <p>※今年度も昨年度に引き続き準学士課程第4学年および専攻科課程第1学年のほぼ全員がインターンシップに参加し、企業からの研修報告書、校内発表会などの審査を得て単位獲得をすることが出来ている。</p>	<p>教務部 キャリア支援室</p>
⑦企業人材を活用した教育体制を検討する。	<ul style="list-style-type: none"> ・第3、4学年の科目で、企業のエンジニア等(本校OBOGも含む)を講師として招き講義・授業を行う。 ・企業人材を活用した最先端技術(EV、電力関連分野など)の講演会を実施し、意見聴取を行ってその効果を検証するとともに、専門科目における教育内容の刷新を図る。 ・本校学生に対して「iPad/iPhone向けアプリケーション開発入門」の講習会を実施し、同時に公開講座として一般市民にも開放する。 ・H24年度まで開発に携わった「鳥取県EV人材育成カリキュラム」等を活用し、地域の産業振興に資する実践的技術者育成のための体制を構築する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高専機構の「企業技術者等活用プログラム」によって企業技術者を招聘し、各専門学科等において先端的トピックを紹介する講演・授業を12件実施した。また、その都度アンケート調査を実施し、教育内容の刷新に向けた検討を行った。(その都度実施済) ・「鳥取県EV人材育成カリキュラム」のうち、建築学科で「第18コマ：電気自動車をふまえた次世代のまちづくり」を活用した講義を実施した。(1月実施済) ・機械工学科では第3学年で開講している機械工学セミナーに、地元のエンジニアを講師として招き講義を行った。 ・電気情報工学科ではEV技術者による講演を実施できた。(1月実施済)。強電系選択志望の学生増につながり効果的であった。 ・電子制御工学科では <ul style="list-style-type: none"> (1)外部の教育力の活用をした。 <ul style="list-style-type: none"> ・非常勤講師として外部の教育力の活用をした。 ・平成26年度に非常勤講師に担当してもらった科目と内容の検討、および人選を行った。 (2)企業の技術者／研究者を講師にした特別講演会を実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ・講師の人選を行い、講演会を実施した。(9月実施済) ・「iPad/iPhone向けアプリケーション開発入門」の講習会を実施した。学生向けの講習会と同時に公開講座として一般市民向けに開催した。(9月実施済) ・物質工学科では4年生以上の科目で企業人材による授業を実施した。後期から企業人材による授業を実施し、アンケートによる影響評価を行った。(11月～1月実施済) ・建築学科では非常勤講師(本校OBOGも多く含む)との打合会を開催した。校長参加のもとで、授業評価アンケートに関するFDも実施した。(5月実施済) 	<p>地域共同テクノセンター 各学科</p>

米子工業高等専門学校 第2期中期計画	平成25年度 年度計画	活動内容	主たる 担当部署
	<p>⑧理工系大学との間での連携を検討する。</p> <p>・他大学の集中講義の聴講制度を調査し、本校の学生への単位認定の可能性等について検討する。 ・技術科学大学との研究室交流を継続する。講演会や教員懇談会を広い学年を対象に催し、交流の充実を図る。 （1）技科大学主催の高専・技科大教員研究会等へ参加する。 （2）高専一長岡技科大連携教育研究助成、豊橋技科大の高専連携教育研究プロジェクト等への応募を検討する。 ・他大学との共同研究を継続して実施する。 ・第5学年で開講している機械動力学に大学から教員を招き講義を行う。 ・鳥取環境大、鳥取短大を含む鳥取県建築交流会に参加する。</p>	<p>・本校の学生による大学の集中講義の聴講(単位認定)が可能なケースについて調査し、理工系大学との連携の可能性について検討した。 ・本校で開講していない第二外国語(本科4年)について、放送大学の単位を本校の単位として認定することにした。(9月実施済) ・第5学年で開講している機械動力学に、大学から教員を招き講義を行う。理工系大学との共同研究を行った。 ・豊橋技大(2月実施)、長岡技大(2月実施)、島根大学(1月実施)の3大学について研究室交流の実施した。連携研究および大学院編入等につながった。 ・豊橋技科大との共同研究を実施した(7月実施済)。 ・医工連携の可能性について検討し、鳥取大学医学部生命科学科の研究室見学を専攻科生が随時行った。(その都度実施済) ・他大学との共同研究を継続するとともに、連携について検討した。 ・島根大学総合理工学部との共同研究を継続中(その都度実施中) ・鳥取大学医学部生命科学科との共同研究の実施(8月から実施中) ・広島大学と干潟再生技術の共同研究を実施した。実際に干潟シュミレータを稼働し、調査を行った(8月実施済)。解析データは学会発表を行う予定である(11月実施済)。 ・広島大学生物生産学部附属竹原ステーションにて物質工学科の学生が、宇部高専の学生とともに広島大学生物生産学部の教員の指導のもと体験型の学習「水族セミナー」を受講した。(9月実施済)。 ・鳥取環境大、鳥取短大を含む鳥取県建築交流会を主催した。教育研究活動について話題提供を行うと共に近年の県内就職状況について意見交換を行った。(6月実施済) ・両技術科学大学等と共同研究を行っている。長岡技術科学大学建設環境系准教授による平成25年度高専一長岡技科大共同研究が7月に採択された。両技術科学大学と高専の建設系教員による研究発表会に参加し研究発表を行った。(8月実施済)</p>	<p>教務部 専攻科 各学科</p>
<p>⑨e-ラーニングの取り組みを充実させる。</p>	<p>・クラウド上で学習できるe-ラーニングコンテンツ(学習到達度試験対策用など)の活用を促進する。 ・材料力学および設計法のe-ラーニングシステムとCADのチュートリアルソフトを紹介し自学自習に役立てる。 ・スマートフォンから利用可能なコンテンツ配信サーバを構築し、定常的な利用が図れる環境を構築する。 ・電子回路CAD・シミュレーションソフトおよびMATLAB/Simulinkを活用した教育を実施する。 専攻科生産システム工学専攻特別実験およびデジタル信号処理においてMATLAB/Simulinkを活用する。 ・「次世代ICT教育用e-ラーニングシステム」を活用した教育を実施する。 「次世代ICT教育用e-ラーニングシステム」を活用する科目を増やすことを検討する ・e-ラーニング教材の学生への周知を行い、活用を促すとともに、シミュレーションソフト等を授業に活用する。 ・各科目のe-ラーニングの内容(演習問題など)を充実させる。</p>	<p>・e-ラーニング・システムの再構築を行った。 ・ポスターなどを利用してe-ラーニング教材を学生に周知し、利用を促した。(11月実施済) ・機械工学科では、材料力学および設計法のe-ラーニングシステムとCADのチュートリアルソフトを紹介し自学自習に役立てた。 ・電気情報工学科では、スマートフォンアプリケーションのプログラムは継続して開発中。また、校内LAN上に共有サーバは、校内HP整備と連動させるためH26年度以降に実施予定。 ・電子制御工学科では、 （1）電子回路CAD・シミュレーションソフトおよびMATLAB/Simulinkを活用した教育を実施した。 専攻科生産システム工学専攻特別実験およびデジタル信号処理においてMATLAB/Simulinkを活用している(H25年4月より実施、専攻科実験は前期・後期に実施済) （2）「次世代ICT教育用e-ラーニングシステム」を活用した教育を実施した。 「次世代ICT教育用e-ラーニングシステム」を活用する科目を増やした。 5年情報伝送、1年電子制御基礎に加え、2年デジタル回路で活用した。 ・物質工学科では、シミュレーションソフト等を授業に活用した。 3年生の情報科学IIでは、化学構造式図画ソフトの活用を行っている。(その都度実施中) 「情報工学II」においてe-ラーニングプラットフォームmoodleを使用し、課題の提示や解答の収集、授業資料の配布などに利用した(10月実施済)。 物質工学実験において分子モデリングソフトWinmostarを用い、分子長の計算などを行った。(5月実施済) ・建築学科では耐震関連のe-ラーニング教材を専用ホームページに掲載し、学生への周知を行い、学生の構造関連科目への自学自習の資料として活用した。(1月実施済) ・教養教育科では・後期に、ポスター掲示などで(クラウド上で学習できるe-ラーニングコンテンツも含めた)e-ラーニング教材を学生に周知し、利用を促した。 後期に、e-ラーニングの内容(演習問題など)を充実させた。 ・ネットワークの円滑な運用を行っている。</p>	<p>教務部 専攻科 図書館 情報教育センター 各学科</p>

米子工業高等専門学校 第2期中期計画	平成25年度 年度計画	活動内容	主たる 担当部署
<p>(5) 学生支援・生活支援等</p> <p>①メンタルヘルスを含めた学生支援・生活支援の充実のための講習会を実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学年ごとの集団担任制を推進し、担任力の強化・充実を図る。 ・教職員を対象としたメンタルヘルスに関する講習会を実施する。 ・特別支援教育士をめざす教員の支援をする。 ・特別支援教育を必要とする学生について教員会議等で周知を図り、支援を呼びかける。 ・顕著な発達障がい等のある学生を支援するために移行支援会議を開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年ごとの集団担任制を推進し、担任力の強化・充実を図った。 ・教職員を対象とする研修会”ストレスに勝つ 元気職場づくり”を開催した。(9月実施済) ・特別支援教育士をめざして講習を受講中の教員(平成24年度から5名が受講開始)に対し、受講に必要な経費を学生相談室の経費から支出し、支援した。 ・4月の教員会議で特別支援の必要な学生に対して必要な心構えなどを説明し、理解を求めた。 ・移行支援会議を行い、4年生に進級する1名の学生に関わる担任、科目担当者、学生相談室員、カウンセラーの間で情報交換、意見交換を行った。(3月実施済) ・全学生に対して、「こころとからだの健康調査」を実施し、ストレスの多い学生の把握と対策を進めた。(6月実施済) 	<p>教務部 学生相談室</p>
<p>②企業情報、就職・進学情報などの提供体制や専門家による相談体制を充実させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各種求人情報を各学科進路担当者が作成し、学生に公開する。 ・本校主催の企業説明会(H26.1/24)、大学説明会(4/25及びH26.1/24)及び保護者説明会等を実施する。 ・本年度夏季に、地元企業を中心としたオープンファクトリーを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・求人情報を各学科進路担当者が作成し、それを学生に公開することで、学生の就職活動に活用した。(その都度実施中) ・1月に企業説明会を行い、就職活動を支援した。4月に大学院説明会を実施し、専攻科生の進学を支援した。1月と3月に大学説明会を実施し、本科生の進学を支援した。 ・9月にオープンファクトリーを実施し、本科低学年生のキャリアパスの育成に役立てた。(その都度実施済) 	<p>キャリア支援室</p>
<p>(6) 教育環境の整備・活用</p> <p>①施設・設備の点検・評価を行い施設マネジメントの充実を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各室の稼働状況を確認して部屋の有効利用等を検討する。 ・平成24年度に実施した施設パトロールにおいて、安全性、老朽化等注意を要すると診断した箇所について、対策を推進する。 ・平成24年度に作成した設備整備マスタープランを基に見直しを図り、教育研究設備の整備を行う。 ・キャンパスマスタープランに基づく長期的な視点に立った計画的な施設管理を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・講義室、教室等の稼働状況の調査(5月実施済)では校内各室の稼働率は高く、さらに居室の集中化など継続的に有効利用方策を検討する(継続中) ・平成24年度に実施した施設パトロールにおいて、安全性、老朽等注意を要すると診断した箇所について、改修工事を行った。(10月実施済) ・設備整備マスタープランに基づいた予算要求を行い、平成24年度補正予算等を財源としてマシニングセンタ等の教育研究設備の整備を実施した。(3月実施済) ・キャンパスマスタープランに基づく中長期的な施設の整備として、図書館情報センターの耐震改修を実施し、基幹整備について概算要求を行った。(5月実施済) 	<p>運営会議 インフラ整備委員会 事務部</p>
<p>②安全で快適な教育環境の充実を計画的に推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学生アンケートを基に老朽化した実験器具を更新する。 ・建築学科の構造実験室に新たに導入された設備の活用を図る。 ・古くなっている機材の見直し、整理を行う。 ・災害に強いキャンパス整備のため、また設備の耐震性向上のため、給水管・屋外消火栓設備等の改修計画を立案し、概算要求を行う。 ・緊急避難経路等の点検を行い、学生教職員へ緊急時の行動について周知する。 ・平成24年度に作成した設備整備マスタープランを基に見直しを図り、教育研究設備の整備を行う。 ・整備計画に基づく、営繕事業の要求を行う。 ・高効率照明、空調機の導入を積極的に行いCO2量の低減に努めるとともに、節水型機器、自動水洗の導入を推進する。 ・教職員に省エネルギー意識の啓蒙を図り、さらなる節電に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一般化学実験室と有機化学実験室の老朽化した実験器具を更新した。(3月実施済) ・昨年度までに構造実験室へ導入した設備は、教育研究・オープンキャンパス・公開講座、企業からの調査研究(火災被害度評価9月実施済)に活用した。 ・単振動の振動台を整理・廃棄し、実際の地震波が再現できる3次元振動台に更新した。(3月更新済) ・乾燥機がセンサー不良により断続的に停止するため、更新を行った。(3月実施済) ・既存の恒温室に加湿装置を加え、恒温恒湿室へ改良した。(2月実施済) ・10月から11月にかけて既設機材の撤去工事を実施した。 ・災害に強いキャンパス整備のため、また設備の耐震性向上のため、給水管・屋外消火栓設備等の改修計画を立案し、概算要求を行った。(6月実施済) ・緊急避難経路の点検を実施し、廊下階段等の避難スペースを確保するとともに、防災避難訓練を通して緊急時の対応を周知した(5月実施済)。 ・H24年度に作成した施設整備マスタープランを基に見直しを図り、マシニングセンタ等の教育研究設備の整備を行った(3月までに実施済)。 ・整備計画に基づく、第一体育館内部改装等の営繕事業の要求を行った(6月実施済)。 ・図書館情報センター改修工事において、高効率照明、空調機の導入を積極的に行いCO2量の低減に努めるとともに、節水型機器、自動水洗を採用した(8月実施済)。 ・図書館情報センターの周辺区域を中心に、学生に快適な教育環境の整備を行った。(交流プラザ、広場の設置)(3月実施済) ・節電に関し、講義室等では貼り紙等による啓蒙を行っているが今後も引き続きパトロールによる各室への声かけを実施していく。 	<p>各学科 事務部</p>

米子工業高等専門学校 第2期中期計画		平成25年度 年度計画	活動内容	主たる 担当部署
	③安全管理のための機構等主催の講習会に積極的に参加させる。	・専門学科分野ごとの安全管理講習会に参加する。	・AEDの講習会を実施し、知識技術の習得を図った。(1月実施済) ・職場のメンタルヘルスセミナー等の専門分野の講習会に参加した。 ・「心の健康づくり計画」に基づき下記の取組を実施した。 1. 教職員に対してメンタルヘルス講習会を実施した。 2. 管理監督者により教職員に対し随時意見聴取を行った。 3. 心の健康づくり活動の評価を実施した。	安全衛生委員会
2・ 社会との連携、 国際交流等に関する事項	①安全面への十分な配慮を払いつつ、学生の国際交流体験や教員の国際交流を促進するための施策を検討する。 外国の大学等の教育研究機関との国際交流事業の協定締結を推進する。	・学校の国際化やグローバル人材教育の推進のため、以下のことを実施する。 (1)国際交流協定に基づく交流プログラムの企画・試行 (2)地元自治体が行う国際交流プログラムへの参画 (3)大学・高専連携による国際交流プログラムへの参画 (4)JICEなど国際協力・連携組織が行う国際交流プログラムへの参画 (5)海外の大学等との協定締結 ・英語、ドイツ語、中国語、韓国語の科目を選択した学生の授業アンケートの検討を始める。 ・第2外国語としてのドイツ語の扱いについて検討する。 ・本科学生の海外研修旅行実施について検討する。 ・鳥取県・バーモント州青少年交流事業の一環として訪日する米国高校生を受け入れ、専攻科生とともに学校交流プログラムを実施する(4月)。 ・海外インターンシップについて、その実現可能性の検討を行う。	・学校の国際化やグローバル人材教育の推進のため、 (1)-1鳥取大学等との連携で、「海洋漂着ゴミ回収を通して日韓の環境問題を考える」(南ソウル大学校)研修における研修プログラムの企画・実施及び学校交流を実施した。(6月) (1)-2JASSO海外留学支援制度(短期派遣・短期受入れ)申請を行ったが不採択であった。(11月) (1)-3交流協定に基づき教員2名、職員2名の派遣を実施した。津山高専から2名、舞鶴高専から2名の教職員を随行した。(3月) (2)-1鳥取県との連携で、鳥取県・バーモント州(米国)青少年交流事業に伴う米国高校生との学校交流を実施した。(4月) (2)-2境港市との連携で、ウラジオストク国際青少年フェスティバル(ウラジオストク市)に専攻科生を派遣した。(6月) (3)-1鳥取大学等との連携で、「海洋漂着ゴミ回収を通して日韓の環境問題を考える」(南ソウル大学校)研修における研修プログラムの企画・実施及び学校交流を実施した。(6月) (3)-2留学生交流シンポジウム(中国地区高専学生国際交流支援コンソーシアム)に留学生・日本人学生を派遣した。(10月) (3)-3合同研究発表会 in Manila(中国地区高専学生国際交流支援コンソーシアム)に学生を派遣した。(11月) (3)-4高専生のための英語キャンプ2013 in Singaporeに学生を派遣した。(8月) (3)-5ISTS2013(国立高専機構)に専攻科生を派遣した。(11月) (4)アジアサイエンスキャンプ2013(JST)に女子留學生が参加し、最高表彰を受賞した。(8月) (5)マレーシア工科大学へ在外研究員を派遣し、主に東南アジアの大学との協定締結を模索する。(3月) ・本科4年に一斉開講しているドイツ語(週当たり3時間)は、平成26年度入学生から選択科目として週当たり2時間とし、中国語、韓国語などを含めた選択科目の一つとした。残りの1時間分は特色ある英語の選択授業として5科目を開講することとし、平成26年度入学生からこのカリキュラムを適用することにした。(9月実施済) ・国際交流講演として、ロシア人通訳による「ロシアと私の国アブハジア」と題した講演を本科4年生に対し実施した。講演の中では簡単なロシア語の基礎についても学習した。(2月実施済) ・海外研修旅行は、全員参加型とせず任意参加として、国際交流担当を中心に検討中である。そのために教務担当教員を韓国に派遣した。(3月実施済) ・海外インターンシップの有効性について検討し、実現に向けて検討を継続する。(10月実施済) ※平成25年度評議員会での指摘事項をふまえ、TOEICに関する活動内容の記載をより詳細なものにしている。	国際交流 教務部 専攻科 各学科

米子工業高等専門学校 第2期中期計画	平成25年度 年度計画	活動内容	主たる 担当部署
② 国費留学生等の受入増に努めるとともに、留学生を取り巻く環境の整備充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・留学生との情報交換会を年2回実施する。 ・留学生控室の整備計画に基づき、整備・充実を図る。 ・寄宿舎の整備計画に基づく営繕工事の要求を計画的に行う。 ・留学生の要望・勉強上の問題点を早期に把握し環境改善に生かすため、教務部と留学生の小規模交流会を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・留学生との情報交換会を実施した。(5月、2月実施済) ・留学生OB講演会・留学生交流会を実施し、留学生OB講演会では「高専留学生の大学への進学とその後の進路について」と題し、本校留学生への進学に向けた勉強や生活全般についてアドバイスを行ってもらった。交流会では、留学生・チューター日本人学生・関係教職員が相互の親睦を深め、留学生が日頃抱えている留学生生活全般についての意見等を聞き、アドバイスや情報交換を行った。(H26年2月実施) ・上記の詳細は、校外向けWebページ「新着・お知らせ情報」のH26.3.6付け記事として掲載している。 ・留学生控室のPCを更新し、インターネット環境を整備した。(3月実施済) ・寄宿舎の無線LANのアクセスポイントを増やす等インターネット環境を整備した。(3月実施済) ・寄宿舎における要求は、中長期計画をベースに予算配分の検討が行われることから急務とされる老朽化した基幹設備及び女子入寮者増加に対応した整備計画は校内予算により整備した。(3月実施済) ・留学生の修学上及び生活面での要望等意見をくみあげるため、指導教員、学生チューターを交えた交流会を実施した。(4月実施済) ・3学年の学生チューターを1名から2名に増員した。(4月実施済) 	国際交流 教務部 寮務部 事務部
⑧ 留学生に対し、我が国の歴史・文化・社会に触れる研修旅行などの機会を学校の枠を越えて毎年度提供する。	<ul style="list-style-type: none"> ・留学生OB講師による講演会を年1回実施する。 ・外国人留学生研修旅行を年一回実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・留学生OBを講師にした講演会を、留学生との情報交換会と同日に実施した。(2月実施済) ・外国人留学生研修旅行を実施し、6名の留学生が沖縄を訪れ、日本の歴史・文化・社会について学んだ。(3月実施済) 	教務部
3・管理運営に関する事項 事務職員や技術職員の能力の向上のため計画的に研修に参加させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・高専機構主催及び大学法人・高専等主催の研修ならびに各種講習会に参加させるとともに、企業が実施する研修ならびに各種講習会へも積極的に参加させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事務職員や技術職員の能力の向上のため計画的に研修に参加させた。(通年実施済) ・機構主催及び大学法人・高専等主催の研修ならびに各種講習会に参加させるとともに、企業等が実施する研修ならびに各種講習会へも積極的に参加させた。 機構主催研修・講習会参加 <ul style="list-style-type: none"> 平成25年度西日本地域国立高等専門学校技術職員特別研修会(機械系)(8月) 高専向けShibboleth講習会(10月) 平成25年度国立高等専門学校機構情報担当者研修会(12月) 大学法人・高専等主催研修・講習会参加 <ul style="list-style-type: none"> 平成25年度中国地区国立高等専門学校技術職員研修(8月) 平成25年度中国・四国地区国立大学法人等技術職員組織マネジメント研究会(8月) 平成25年度中国・四国地区国立大学法人等技術職員研修(機械、生物・生命分野)(8月) 第25回情報処理センター等担当者技術研究会(8月) 平成25年度鳥取大学機器・分析技術研究会(9月) 平成25年度実験・実習技術研究会inイーハトーブいわて(3月) 企業等実施研修・講習会参加 <ul style="list-style-type: none"> MF-Tokyo2013 プレス・板金・フォーミング展テクニカルセミナー(7月) 能力開発セミナー「切りくず処理の問題解決 旋削加工編」(9月) (株)インソース公開講座「評価者研修」(11月) オムロン(株)「制御技術セミナー」【実践コース】(1月) 日経アーキテクチュアセミナー(3月) 	事務部 技術教育支援センター